令和２年度学校評価総括表

徳島県立阿南支援学校

教育目標	本年度の重点課題
＜徳島県教育の基本目標＞ とくしまの未来を切り拓く，夢あふれる「人財」の育成 ＜学校経営基本方針＞ １　教育方針 一人一人の特性に応じた教育を行い，その可能性を最大に伸ばし，社会参加や自立につながる児童生徒の育成を図る。 校　訓 あかるく　ゆたかに　たくましく ２　教育目標 （１）自らが生活するための基礎的な力を身につけ，進んで身の回りのことができる児童生徒を育てる。 （２）健康で安全な生活に努め，一人一人に応じた体力づくりを行い，粘り強く活動できる児童生徒を育 てる。 （３）学ぶことに興味をもち，豊かな感性を養い，自分の思いを表現できる児童生徒を育てる。 （４）生活経験の拡大を図り，人との関わりを深め，集団生活で協調できる児童生徒を育てる。 （５）社会生活に必要な知識や技能を習得し，積極的に社会参加・自立できる児童生徒を育てる。	１　安心・安全な学校づくりの推進 ・感染症予防，事故防止対策の徹底 ・防災対策の充実 ・緊急連絡体制の強化 ２　多様性を育むキャリア教育の推進 ・自己肯定感を高める教育活動の実践 ・小中高がつながる学びの推進 ・教員の専門性，指導力の向上，状況に応じた指導の改善 ・職業教育の見直しと検討 ３　地域とともにある学校づくりの推進 ・地域と連携したした学習活動の推進 ・地域交流及び地域貢献の推進

〔令和２年度学校評価総括表　小学部〕　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　児童の安全や健康についての情報共有及び事故防止対策の徹底	評価指標 １　学部内アンケートにおいて，児童の安全や健康について情報の共有や予防の対策ができたと回答した学部教員が，全体の 85 %以上になる。 活動計画 １－①感染症予防のために，児童に対して手洗いや手指消毒，検温等を行い，常に健康観察をする。 １－②授業場所の換気や机の配置等の工夫をする。 １－③毎日１回は各学級をまわって確認し，環境設定等が不十分であれば改善する。 １－④月２回の学部会において，健康や安全に関する配慮事項について毎回児童の情報提供の時間を設定し，情報共有をする。 １－⑤けがや事故につながる恐れのある事象についてはインシデント・アクシデント報告書を作成し，注意喚起や事故防止対策を行う。 １－⑥職員朝会や部会で周知し，共通理解を図る。	評価指標の達成 １　アンケートでは，児童の安全や健康についての情報共有と予防対策が「十分にできた」「だいたいできた」と全ての小学部教員が回答した。 活動計画の実施状況 １－①児童に対して手洗いや手指消毒を徹底し，検温は毎日登校後と下校前の２回は実施し，学校生活の中では常に健康観察を行った。 １－②授業場所は常に窓を開けて換気している状態にし，各机を離して配置した。 １－③毎日１回は各学級をまわり，環境設定で改善できる点は改善を行った。 １－④学部会において，健康や安全に関する配慮事項について児童の情報提供の時間を設定した。アンケートで職員全員が情報共有できたとの回答であった。 １－⑤けがや事故になる恐れのある事象が３件あった。インシデント・アクシデント報告書を作成し，再発防止策を管理職や養護教諭と話し合い改善を行った。 １－⑥インシデント・アクシデントがあった際に報告書をもとに職員朝会や学部会で周知し共通理解と注意喚起を行った。	総合評価 （評定） B （所見） 安全や健康面で取り組んだことは，１階玄関や通用口の出入口を閉める，教室手洗い場の角にコーナークッションを貼る，小学部掲示板や廊下掲示物の表面に押しピンの使用を避ける，児童が口に入れそうな物が落ちていないかの確認等を行った。児童の安全・健康面については学部教員との情報共有を図ることができ，普段の学校生活や校外行事においても大きな事故やけが等は起きておらず，目標はほぼ達成できたと考えている。	活動計画の実施状況⑤について けがや事故になる恐れのある事象が３件あったということだが，どのような事象なのか。	児童の安全や健康については，引き続き情報共有を図る。また，新型コロナウイルス感染症対策でドアや窓が開いている場所が多いため，今後も注意喚起を図るようにする。小学部教員のアンケートでは，事故予防対策が「十分できた」「だいたいできた」と全教員が回答したが，他の意見として「窓にもっと網戸をつけてほしい」「児童が床の通気口の穴に指を入れるのでネットの張り替えをしてほしい」等の要望があったため，危ないと考えられる箇所は改善していきたい。
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 １　日常生活に必要な知識・技能を養い，児童の自立度を高める	評価指標 １　個別の指導計画の短期目標設定時に，「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して，目標を１つ以上設定する。その目標を達成した児童が全体の 80 %以上になる。 活動計画 １－①４月・５月に「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して実態を把握する。 １－②昨年度の各日常生活チェックシートの評価が６段階の評価３（指さしと声かけ）から評価５（見守りありで一人でできた）までの項目から個別の指導計画の目標を設定する。 １－③個別の指導計画提出時に，学部長が目標を確認する。 １－④１ヶ月に１回，４グループに分かれてケース検討会を実施し，進捗状況を確認する。指導目標や手だての検討が必要なケースについて話し合い，改善策を出し合う。 １－⑤個別の指導計画の評価後に，達成状況をまとめる。 １－⑥年度末に学部教員にアンケートを行い，次年度の課題と改善策を検討する。	評価指標の達成 １　「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して，全児童に個別の指導計画の目標を１つ以上設定した。前期目標の達成率は 80.6 %，後期目標の達成率は 93.8 %であった。 活動計画の実施状況 １－①新年度に日常生活チェックシートを活用し児童の実態把握することができた。 １－②昨年度の各日常生活チェックシートをもとに個別の指導計画の目標を設定した。評価１（できなかった）や２（身体プロンプト）からでも５まで達成した目標もあった。 １－③個別の指導計画提出時に，目標を確認し，不明な点等は担任と話し合って改善した。 １－④長期休校や行事等でできない月もあったが，６回のケース検討会を実施した。指導のアイデアを教員間で出し合い，指導の改善を図ることができた。 １－⑤前期・後期末の評価をもとに，研究課と一緒に目標の達成状況をまとめた。 １－⑥１月に小学部教員にアンケートを行い，次年度の課題と改善策を研究課と一緒に検討した。	総合評価 （評定） A （所見） 朝・帰りの行動観察チェック表に加えて，給食時間の行動観察チェック表も活用して個別の指導計画の短期目標を設定した。前期目標の達成度が 80.6 %，後期目標の達成度が 93.8 %であり目標は達成できたと考えている。４グループに分かれてのケース検討会は，長期休校等もあり，できない月もあったが，昨年度よりも回数を増やしたことで各ケースの進捗状況がよくわかり，指導の改善が早い段階でできたと考える。	「日常生活に必要な知識・技能を養い，児童の自立度を高める」にむけて実践している SWPBS は，障がい者支援施設でも活用できるのではないかと考える。情報を提供していただきたい。	日常生活の指導について，ほとんどの児童が目標を達成しているが，引き続き自立度を高めていきたい。 日常生活チェックシートで「△」の評価について教員間で基準がわかりにくいとの意見があったため，基準を明確にし，共通認識した上で評価できるよう改善する。小学部教員へのアンケートで挙がった改善点をもとに研究課と一緒に来年度の取り組みについて検討したいと考えている。

＊「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　中学部］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　感染症予防，事故防止対策の徹底	評価指標 １　決まった時間に手洗いができているかを記録し，達成率が 80 %以上になる。 活動計画 １－①集会活動の計画に，手洗いのやり方やマスクの着用等について学べる機会を取り入れ，定期的に確認ができるようにする。 １－②自立活動の時間に清潔や感染症予防について，役立つスキルの獲得ができるようにグループ別に計画を立て，実践に取り組む。 １－③設定した時間（登校後，朝の運動後，給食前，下校前）に手洗いができているかの記録を７月と１月にとり，２回の記録時に達成率をだす。	評価指標の達成 １　７月と 12 月に記録を行った。１日４回の手洗いが，７月は 91 %，12 月は 93 %達成できた。 活動計画の実施状況 １－①集会時に，感染症予防や長期休業前の注意点として，手洗いやマスク着用について確認を行った。 １－②自立活動の性教育の時間に，清潔に関する内容を盛り込み，グループ別に実践を行った。 １－③設定した時間に手洗いができているかどうかの記録を７月と 12 月にとった。回数を数えて，達成率を出すことができた。	総合評価 （評定） A （所見） １日の中で手洗いの時間を決める等することで，日常生活の一部として手洗いやマスク着用が定着した。また，集会等で感染症予防について取りあげたことで，生徒たちの清潔に対する意識が向上してきた。	活動計画の実施状況①について 感覚過敏等でマスク着用が難しい児童生徒が在籍していると思う。その子どもたちのマスクの着用の定着にむけてどのような工夫をしたのか。	手洗いやマスク着用の定着が図れたが，今後も継続して感染症予防については取り組む必要を感じている。状況に慣れることなく，手洗いや消毒，密を避ける環境等，引き続き配慮していきたい。
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 １　小中高がつながる学びの推進	評価指標 １　「朝と帰りのチェックシート」または「清掃のチェックシート」を活用して個別の指導計画の目標を立て，その目標を達成した生徒が全体の 80 %以上になる。 活動計画 １－①小学部から使っている「朝と帰りのチェックシート」または高等部で作成した清掃マニュアルを参考に作成した「清掃チェックシート」を生徒の実態に応じて活用し，正確に実態を把握する。 １－②担任と授業担当者でそれぞれのチェックシートを使って話し合い，日常生活の指導や自立活動の目標を設定し，指導に取り組む。 １－③定期的に報告会を持ち，状況を共有して指導方法の改善やアイデアを出し合い，今後の指導に役立てられるようにする。 １－④コンサルテーション事業を活用し，取り組みの進め方について助言をいただき，指導の促進や改善に役立てる。 １－⑤掃除のやり方について，高等部の技能検定練習場面や普段の掃除場面を見学し，掃除について学べるようにする。 １－⑥前期末，後期末に達成度を確認し，チェックシートの達成度を確認する。 １－⑦クラスごとに取り組みについてまとめ，事例報告集に掲載して成果を教員間で共有できるようにする。	評価指標の達成 １　「朝・帰り・給食のチェックシート」または「清掃のチェックシート」を活用して立てた個別の指導計画の目標で，前期と後期を合わせて 80 %以上の生徒が達成することができた。 活動計画の実施状況 １－①「朝と帰り・給食のチェックシート」は全員がチェックし，実態に応じて「清掃チェックシート」も活用し，実態把握に役立てることができた。 １－②担任と教科担任とで話し合いをし，どの場面で目標に取り組むかの確認をすることができた。 １－③本年度は３回グループ別の検討会と全体報告会を持った。事例ごとに今後の指導に役立つアイデアを得ることができた。 １－④年間２回のコンサルテーションを行った。進め方やチェックシートの内容等について助言をいただき，改善に役立てた。 １－⑤２月中に現高等部１年の職業科の生徒による掃除場面を見学する機会を持ち，掃除について知る機会を持つ予定である。 １－⑥前期末，後期末にチェックシートの達成度の確認を行った。 １－⑦年度末に各クラス１事例を事例報告集に掲載し，成果を教員間で共有できるようにする予定である。	総合評価 （評定） B （所見） チェックシートの活用はスムーズに行えた。取り組みのタイムスケジュールや検討会・報告会の記録用紙等を小学部と同じものを使って取り組む事で，初めての取り組みとしてはとてもスムーズに進めることができた。 コンサルテーションも活用し，中学部での取り組みのやり方や，清掃のチェックリストの作成についてのアドバイスもいただき，改善することもできた。事例報告集ともリンクすることができ，教員の負担感の軽減にも少しは役立てることができた。	小中高とつながる取り組み（日常生活指導のチェックシート）について 小学部では基本的な生活習慣を養い，中学部ではマナー等を身に付けることをプラスするという引き継がれていく，積み上げていく実践はよい。ぜひ，高等部も継続してほしい。 令和２年度の児童生徒数について 減少しているかどうか	小学部からの取り組みを中学部でも取り入れての１年目だったが，小学部のノウハウや記録用紙，マニュアルを活用できたことで，とてもスムーズに取り組むことができた。 今後は，「朝・帰り・給食チェックシート」を中学部の生徒の実態把握に役立つように改善したり，「清掃チェックシート」の記録の仕方や使いやすいバージョンの作成等を考えていきたい。「清掃チェックシート」については，高等部で使用している手順書を参考に作成したので，高等部への継続を視野に入れて，取り組みを広げていきたい。また，長く継続して取り組むことができるように，検討会や報告会の持ち方等で教員の負担感の軽減等も考えていきたい。

＊ 「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　高等部］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　感染症予防，事故防止対策の徹底	評価指標 １　感染症予防・事故防止についての情報共有・対応策検討の時間を学部会の度に設定する。 活動計画 １－①感染症や事故についての情報は管理職に報告するとともに学部会等で共有し，対応策を検討し，周知する。 １－②事故及び重大な事故や怪我に繋がる恐れのあるものは，「インシデント・アクシデント」の報告書に記載を促し，高等部の共有フォルダに入力し，情報共有をはかる。	評価指標の達成度 １　感染症予防・事故防止について対応策を学部会等で検討し，職員間で情報共有した。 活動計画の実施状況 １－①感染症や事故についての情報は管理職に報告するとともに学部会等で共有し，対応策を検討し，周知した。 １－②事故及び重大な事故や怪我に繋がる恐れのあるものは，「インシデント・アクシデント」の報告書に記載を促し，高等部の共有フォルダに入力し，情報共有をはかった。	総合評価 （評定） B （所見） 新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みを状況に合わせて行った。特に給食指導において特別な準備や配慮が必要であった。		感染症予防・事故の防止については来年度も引き続いて情報を共有し，臨機応変な対応策を検討していきたい。
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 １　コミュニケーション能力の育成 ２　職業教育の見直しと検討（学科再編をみすえた教育課程の検討）	評価指標 １　コミュニケーション能力の向上が見られた生徒が 80 %以上になる。 ２　学科再編検討委員会を年３回以上開催し，提案書を作成する。 活動計画 １－①個別の指導計画においてコミュニケーション能力の向上に関する目標を立て，実践する。 １－②個別の指導計画において，コミュニケーション能力及び社会性の育成に関する項目の評価が向上しているかどうかをチェックする。 １－③自立活動の内容・指導方法を検討し，共有する。 ２－①学科再編検討委員会 ５月…学科編成についての経過の確認と今後のスケジュールについての確認 ６月…提案書の提出。県との協議を行う。 ７月～１０月…学科再編案の見直し。 ①基本的な方向性 ②教育課程に関すること ③施設設備に関すること　等 ２月…課題整理と次年度の取り組みを検討する。	評価指標の達成度 １　98 %以上の生徒にコミュニケーション能力の向上が見られた。 ２　検討委員会を４回開催し，県教委との検討会も持ち，学科再編の見直し案を提出した。 活動計画の実施状況 １－①②　「個別の指導計画」においてほとんどの生徒にコミュニケーション能力及び社会性の育成に関して能力の向上が見られた。 １－③　各学科・コース・グループ毎に担当者を決め，指導を行なった。また，外部から講師を招きアドバイスをいただいた。 ２－① ５月　学科編成についての経過の確認 ６月　県教委との検討会 ７月　見直し案検討 ８月　〃 ９月　県教委との検討会 ９月　見直し案検討 １０月　見直し案提出	総合評価 （評定） B （所見） 欠席の多い生徒以外はすべての生徒にコミュニケーション能力の向上がみられた。授業だけではなく学校生活全般にわたって意識して指導を行ったことが有効であった。 生活科学科・産業工芸科・普通科職業基礎コースで今年度から自立活動の時間を新設した。個々の生徒の課題がより明確になり，有効であった。 教育委員会との協議により提案内容の見直しが必要であった。今後の取り組みについては教育委員会と協議しながら再検討が必要である。	活動計画の実施状況１－③について 高等部は３学科あるが，学科ごとにグループを編制しているのか 外部講師による指導は全グループで実施したのか	新型コロナウイルス感染症の影響でコミュニケーションの取り方にも工夫が必要であった。その中でもコミュニケーション能力の向上がほぼすべての生徒についてみられたことは成果であった。個々の生徒をみるとさらなる課題も多く，今後も指導を続けていく必要がある。工夫をしながら，人と関わる場面を多く経験させたい。 学科再編については，今後，教育委員会との協議がさらに必要である。
〔本年度の重点課題〕 地域とともにある学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　地域資源を活用した学習活動の推進	評価指標 １　竹林再生会議と連携し，授業で竹林関係の作業を実施する。 活動計画 １ ５月～竹和紙作業開始 ６月～肥料作り・ブルーベリー栽培等 ７月～作品作り等 １０～２月　展示・発表等 ３月～まとめ	評価指標の達成度 １　竹林再生会議と連携し，竹紙の制作，竹紙を使ったランプシェードや間仕切りの制作等を行った。 活動計画の実施状況 １　計画を変更して実施した。 ７月…オオキンケイギクの採取等 ９月～和紙作り １０月～ランプシェード・間仕切り作り １２月学校祭での展示 １１月～３月　発表・マスコミ取材等	総合評価 （評定） B （所見） 新型コロナウイルス感染症の影響で，時間にも内容にも制限があったため，当初の計画を変更して実施した。地域と連携して組むことができた。	オオキンケイギクの採取について オオキンケイギクは日本の生態系に影響をおよぼすおそれがある植物として外来生物法による「特定外来生物」に指定されている。栽培，運搬は禁止されている。 ＊県立博物館の学芸員から指導を受けながら採取したことを報告した。	竹紙作りについては，作業学習の一つとして継続して取り組んでいきたい。また，竹紙を活用した作品作りを行って，地域に発信する取り組みも継続したい。

＊ 「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　　Ｂ：概ね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　総務課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　校内の防災対策の見直し・検討をし，必要な訓練等を行う。	評価指標 １－①児童生徒の備蓄食の見直しをする。 １－②防災備蓄品等の一覧表を含めた，新しい危機管理対策ファイルを発行する。 １－③避難訓練に，従来までにはなかった訓練を追加する。 活動計画 １－①５年以上保存可能な備蓄食を，児童生徒の 80%以上が準備する為に，個別に現在の備蓄食を確認する。今年度又は来年度中に消費期限を迎える児童生徒は必ず５年以上保存可能な備蓄食に切り替えてもらうよう，担任と保護者に説明する。 １－②防災関係の備蓄品の所在と個数，配付元を明確にする。一覧表にまとめ，危機管理対策ファイルに保存する。 １－③地震津波想定避難訓練時に給食の代わりに，備蓄食を食べる訓練と新たに引き渡し訓練を計画し，実行する。	評価指標の達成度 １－①５年以上保存可能な備蓄食を，児童生徒の 80%以上が準備することができた。 １－②防災備蓄品等の一覧表を新たにするために，画像を入れて，わかりやすくした。 １－③地震津波想定避難訓練時に教室を避難所に見立て，照明を消して備蓄食の試食を取り入れた。 活動計画の実施状況 １－①全校児童生徒の現在の備蓄食調査を行い，半年ごとに買い換えていた普通の食品を備蓄することはやめた。またアレルギーや嚥下機能の問題があって，いわゆる長期保存可能な備蓄食が食べられない児童生徒は，個々に購入した長期保存可能な食物を担任が管理，更新案内をするようにした。 １－②防災関係の備蓄品の所在と個数，配付元を資料に沿って調べ，明確にすると同時に画像を撮って一覧表にまとめることができた。 １－③地震津波想定避難訓練時にグランドに避難終了後，各教室を避難所に想定し，備蓄食を食べる訓練を実施した。引き渡し訓練は生徒指導課と協力して次年度以降に行う。	総合評価 （評定） B （所見）長期保存可能ではない普通の食品から，長期保存可能な備蓄食を，児童生徒の80%以上が準備することができたことは大変良かったと思っている。 防災関係の備蓄品の中には使用方法がわかりにくいものがあった。今回一覧表に画像を追加したが，使用方法等も追加する必要がある。常にバージョンアップをする必要性を感じている。 備蓄食を試食できたのは良かったと思うが，新型コロナウイルス感染症等の関係で引き渡し訓練にまで至らなかったのは残念であった。	備蓄食の見直しについて 具体的にどのように見直したのか。 今後の地域との連携の進め方について 阿南支援学校防災地域連携協議会で実施できる方法等を検討する必要がある。 大野自主防災会でも話をしていきたい。 阿南市から避難所開設時の備蓄品を体育館の２階に置いてあることについて 体育館２階の置いてある場所はわかりにくく，出し入れも容易にできない場所なので，検討する必要がある。	本校は高台にあり，大規模災害に見舞われても，比較的津波等の心配は少ない。しかし陸の孤島状態になる可能性が非常に高く，訓練はもとより備蓄食や災害時を想定した体験などの準備が必要である。更に本校は阿南市の災害避難所指定を受けている。次年度は地域住民の方々と近年の内に合同の災害対応訓練ができるよう阿南支援学校防災地域連携協議会の開催と，地域の方々の積極的な参加を呼びかける必要がある。 危機管理対策ファイルの内容に生徒生活指導課が行っている不審者対応等の内容を組み込み，災害時だけではない，考え得る危機について網羅した危機管理対策ファイルに更新・変更していきたい。

＊「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　教務課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　新型コロナウイルス感染症予防対策として，３密を避けるための授業の実施場所について検討し，感染者０を目指す。	評価指標 １　３密予防のための授業の実施場所について，教室の対策はできていたという教員の評価が 80 %以上となる。 活動計画 １　各学部ですべての授業について実施場所と参加人数を照らし合わせる。密になりそうな授業については他学部とも話し合い，最善策を模索していく。	評価指標の達成度 １　教員に３密予防のための授業の実施場所についてのアンケートを実施した。（対策が）「十分できていた」と「だいたいできていた」を合わせると 100 %の達成度であった。 活動計画の実施状況 １　年度初めに全学部の密になりそうな授業を挙げ，実施場所について検討した。急な授業変更についても報連相を徹底し，できる限り密にならない対策を講じることができた。	総合評価 （評定） A （所見） 視聴覚室等の大きな教室については人数の多い授業を優先的に使用できるようにしたり，空き教室を利用したりすることで児童生徒が一定の距離を保つことができた。感染者０を実現することができた。		授業の実施場所については，来年度も全学部で話し合って決めていく予定である。場合によっては密を避けることができないこともあり得るが，換気を徹底したり授業形態を工夫することで，予防対策をより強化していきたい。
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 １　キャリア教育の視点から，将来必要な力を養うための教育課程・教育内容の見直しを行う。	評価指標 １　各学部の課題をあげ，その 70 %について改善案をまとめ，８月上旬までに次年度の教育課程を作成する。 活動計画 １－①小学部において，体育の授業の学習内容と指導形態のあり方について，実態把握を行い，課題について検討する。 １－②中学部において，生徒の実態に合わせた授業グループの編成や学習内容について検討する。 １－③高等部において，昨年度までにまとめた職業科の学科再編案について，教育課程について検討する。	評価指標の達成度 １　各学部で教育課程についてのアンケートを実施した。８月の時点では特に変更する点はなかったが，１月に少し意見が出たので，３月上旬までに教育課程を作成，検討する予定である。 活動計画の実施状況 １－①９月に各クラスでアンケートを実施し，朝の体育の授業について学習内容や改善点，課題についての調査を行った。１２月に出てきた課題点として指導形態のあり方についてのアンケートをとった。３月中に来年度の授業の指導形態を検討する必要がある。 １－②生徒の実態に合わせて各授業４～９グループに編成した。７月にアンケートを実施し，８月の学部会でアンケート結果について共通理解を図った。学習内容についてはグループ毎に検討した。 １－③昨年度までの学科再編案を高等部の教員に示し，各学科のコンセプトや学習内容等についてアンケートを採って全体の方向性を決めた。新学科開設の日程が１年延期されたため，教育課程については現在も検討中である。	（評定） B （所見） 小学部と中学部においては，児童生徒の実態に合った学習内容や指導形態について，教員同士で共通理解を図りながら検討を重ねることができた。 高等部においては，職業科と共に普通科のあり方も検討し，どのコースを選択しても生徒を学校から社会へスムーズにつなげられることを目標に教育課程について検討中である。		全学部，新学習指導要領に沿った教育課程を検討しつつ，児童生徒の実態に応じた学習内容や指導形態，グループ編成等についても検討していく必要がある。

＊「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　研究課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 １　指導内容系統表（国語）の月齢 72 ～ 132 ヶ月の項目において，小・中・高等部の学習のつながりがさらに明確になるよう改訂を行う。 ２　子どもたちが自信を持って参加できる授業づくりや問題行動の改善のために，全学部で専門家派遣事業を活用する。	評価指標 １　各発達年齢において，４～５の項目を設定する。その際に，新学習指導要領や進路別チェックリストの国語に関連する内容を発達年齢ごとに入れる。 ２　学部研修や専門家との指導手続きの話し合いの機会を各２回設定する。年度末に各学部の取り組みや効果的な支援方法を全教員で共有するための報告会を行う。 活動計画 １－①先行研究事例や進路別チェックリストより必要な学習内容をリスト化する。 １－②リスト化した内容がどの年齢に当てはまるか，新学習指導要領小学校１～６年の国語単元一覧表と照らし合わせる。 １－③特に重要度が高い項目を精選する。年度末には新しい指導内容系統表を使って，次学年への引き継ぎが行えるよう様式を整える。 ２－①研究課員の中より各学部ごとに研修担当リーダーを配置し，計画書作成や指導や研修の実施に当たって，担任・担当をサポートする体制を構築する。 ２－②コンサルテーションを実施し，放課後に学部研修会や報告会を開催して，情報共有に役立てる。 ２－③小学部のコンサルテーション事例（SWPBS／学校全体で取り組むポジティブな行動支援）では，２－②以外に，月１回グループ検討会を実施し，指導目標の妥当性，方向性，指導の進捗状況について話し合い，個々の教職員が持つ専門性・アイディアを共有する。	評価指標の達成度 １　新学習指導要領や進路別チェックリストの内容を踏まえ，全面的な改訂を行った。発達年齢によって数にばらつきがあった項目を追加・精選し，すべての月齢において４～５の項目を設定した。 ２　小・中・高等部の専門家派遣事業において，各２回以上の指導手続きの話し合いを行った。３月に情報共有のための報告会を計画し，資料を作成中である。 活動計画の実施状況 １－①４つの研究事例や進路別チェックリストから，本校の生徒に特に重要度が高い学習内容をリスト化した。 １－②リスト化した内容と年齢を照らし合わせるにあたっては，それぞれの内容が発展的につながるように配置した。また，指導内容がイメージしやすいよう具体的な行動を示す内容を多く取り入れた。 １－③１月中旬に様式が完成した。２月以降，項目へのチェック入力を開始し，引き継ぎや次年度の学習グループ分けに活用する。 ２－①今年度は，結果として各学部の研修担当リーダー自らが事例も担当する場合が多かった。サポート体制の構築については次年度も継続する課題である。 ２－②中学部では学部研修会で生徒の課題を共有し，多くの指導アイディアを出すことができた。今年度から始めた中学部の SWPBS でも，対象となる日常生活の指導以外では，情報共有を進めたいとの意見があった。 ２－③月１回の実施は難しく，２ヶ月に１回程度の実施であったが，指導目標について様々なアイディアを出しあい，指導に生かすことができた。検討会で共有したほめ方（関わり方）を実践してうまくいったという話もあった。	総合評価 （評定） B （所見） 指導内容系統表（国語）ににについては，これまで項目が極めてが少なく，かつ抽象的であった月齢 72 ～ 132 ヶ月の項目において，多くの先行事例を比較し，リスト化することにより具体的な項目を多く上げることができた。例えば，小学部段階で課題となることが多い「話を聞く」ことが「質問」「会話のやり取り」「話し合い」「司会の役割遂行」というように高等部ひいては社会人として必要な力を系統的に示すことができた。 専門家派遣事業（コンサルテーション）については，学部により進捗状況や教員の参加範囲は違うが，専門家の助言を受け授業内容改善のために教員が研修や小グループでの検討会で意見を出しあった。また，出た意見を生かすべく専門家と協議も進んでいる。授業づくりや問題行動の改善のための取り組みに反映することができた。		指導内容系統表は，項目チェック後，課題を行動シートに書き写し，課題分析を行って個別の指導計画に目標として立案するという過程を踏む。行動シートは全教員が取り組むよう依頼している。 今年度は指導内容系統表だけで，目標立案ができるという意見が出た。前年の指導内容系統表（算数・数学）改訂の結果，活用しやすくなったためとの評価とも受け止められるが，課内で状況を確認すると指導内容系統表だけで目標立案できるスキルがある教員と経験が浅く行動シートの活用に難儀している教員に分かれていることがわかった。行動シートの文言を平易に，また記入を絞るよう改訂した。さらに，研修の対象や内容を検討することも必要である。２年をかけて改訂し，学年ごとに順次移行した系統表が来年度は全学部で実施される。アンケート等により各学部の意見を集約しよりよく活用されるよう取り組みたい。 コンサルテーションについては，小学部から中学部へと繋がり発展した日常生活の指導を対象とした SWPBS を高等部へどのように導入するか，今年度から高等部で始めた自立活動のコンサルテーションをどのように深めてゆくかが課題である。学部全体として，学校全体としてどのような考えで進めていくか，目指す生徒の変容はどのようであるか，丁寧な検討や意見集約ができるよう研究課としての職責を遂行したい。

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　図書情報課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 1　情報モラルに関する指導の充実改善を図るために，研修や啓発活動等を計画的に推進する。	評価指標 1　年間７回以上情報モラルに関する職員研修や啓発を実施する。また，年度末の調査において，95％以上の教員が理解し実践できたと答える。 活動計画 1　情報モラル教育年間計画をいつでも閲覧できるように配置し，職員会議や職員研修等において，啓発や研修を年間７回以上実施する。また，年度末の調査を行い成果等を評価する。	評価指標の達成度 1　研修や啓発を職員会議等において年間7回実施できた。年度末の調査では，97％の教員が「理解し，実践できた」と答えることができた。 活動計画の実施状況 1　情報モラルに関する研修や啓発を７回以上実施することができた。年度末の調査では，88％の教員が「実践できた」と答えることができた。	総合評価 （評定） A （所見） 特別に時間を設けるだけでなく，職員会議等の時間を活用することによって，日常的に意識することができたものと考えられる。		GIGA スクール構想が実現し，今後さらに ICT 機器の利活用推進や教員の ICT 活用指導力の向上が求められている。この課題に十分対応することができるように，一人一人の教員の意識の改善や向上が必要であり，研修や啓発の工夫改善が求められている。 図書情報課の校務分掌の重要性もさらに増すことが予想される中，担当教員の意識やスキルの向上も必要である。また，適材適所による教員の配置や情報機器の取り扱いに詳しい教員の組織的な養成が今後必要である。 学校図書館システムの導入や学校ホームページの充実改善など，今年度重点的に取り組んだ事柄を，次年度以降も引き続き継承・充実発展させていくことが今後求められる。
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 1　研修や啓発の充実を図ることによって，教員一人一人の ICT 活用指導力の向上を図る。また，ICT 環境や校務システムの充実改善を図ることにより，小学部から高等部まで一貫した系統的な指導や指導に係る校務等を効果的かつ効率的にできるよう推進する。	評価指標 １－① ICT 活用指導力に関する研修や啓発を年間７回以上実施する。 １－② ICT 機器を利活用した授業を年間５回以上実施する教員の割合を 92％以上とする。 １－③　iPad と接続できるモニター等を常時設置している教室の割合を 15％以上向上させる。 活動計画 １－① ICT 活用指導力に関する啓発や研修を年間７回以上実施するとともに，年度末に職員アンケートを実施し，どのように実践したかについて調査する。 １－②時宜を捉えて職員への啓発を図り，具体的授業実践に関する職員アンケートを年度末に実施し，どのように実践したかについて調査する。 １－③各種事業等への積極的な参加を図るとともに県費等による備品の充実を図り，視聴覚機器を年間２台程度増設できるようにする。	評価指標の達成度 １－① ICT 活用指導力に関する研修や啓発を年間７回以上実施することができた。 １－② ICT 機器を利活用した授業を年間 5 回以上実施できた教員は 78％であった。 １－③常時設置している教室は１教室増えただけであったが，学校全体では，3 台のテレビが増設された。 活動計画の実施状況 １－①研修や啓発活動を職員会議等において計画的に行った。年度末の調査も実施し評価ができた。 １－② ICT 利活用に関する啓発を行い，年度末に調査を行った。 １－③学びの力向上推進事業などコロナウィルス対策関連の事業が加わり，例年に比べて整備充実を図ることができた。視聴覚関連だけでなく，パソコンなどの ICT 関連機器も充実した。	総合評価 （評定） B （所見） 研修や啓発の充実を図ることはできたが，授業を展開するにあたって，年度当初の臨時休校等，例年と違う対応が迫られる等新型コロナウイルス感染症対策の影響があったものと考えられる。 しかしながら，小中高の各学部の学びの連続性の確保や指導の一貫性という観点がもう少し浸透していく必要があるのではないかと考えられる。そのためには，研修や啓発の充実改善が必要である。	学校図書館システムの導入について 蔵書数，導入にかかる費用や時間を教えてほしい。 まだまだ導入されている学校は少ないと聞いている。要請があれば，ぜひ，ノウハウを伝えてほしい。	
〔本年度の重点課題〕 地域とともにある学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 1　地域等に対しての学校ホームページによる情報発信を活性化させ，開かれた学校を目指した取り組みを積極的に推進する。	評価指標 1　学校ホームページの情報発信を活性化し，更新が必要なページを年間４回以上更新する。 活動計画 1　学校ホームページの充実に向けての担当者等への啓発研修を推進する。また，更新頻度が上がるように，更新状況等について時宜を捉えて全職員に周知する。また時宜を捉えて，更新ができていない担当者に更新をするように促す。	評価指標の達成度 1　ほとんどのページが４回以上更新できていたが，一部のページにおいてできていない状況もあった。 活動計画の実施状況 1　年度内に学校ホームページを新しいシステムに移行することができ，教職員の意識も高まり，啓発研修の充実を図ることができた。しかし，一部のページにおいて，啓発をしてもなかなか対応ができていない状況も見られた。	総合評価 （評定） B （所見） 新しいシステムに早期に移行できたことは，外部発信の充実だけでなく教職員への啓発研修の充実につながり成果があった。今後さらに担当者への意識向上や内容の充実を図ることができるような啓発や研修が必要である。		

＊「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　人権教育課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 １　お互いを尊重する態度の育成を図り，人権に関する様々な情報発信を行う。	評価指標 １－①毎月 10 日の「人権の日」を基本として，さわやかクラブの部員による人権放送を月 1 回以上，実施する。 １－②学校祭をはじめ様々な行事へ参加することにより，年間２回以上，作品発表の機会をもつ。 活動計画 １－①人権放送を通して，児童生徒や教職員に対して「平和の折り鶴」作成の呼びかけや人権の大切さについての発信を行う。 １－②あいぽーと徳島や阿南市が主催する，「人権に関する児童生徒の作品」募集事業の標語ポスター部門や，作詞・作曲部門に応募し，校内外における様々な機会を通して，子どもたちによる作品の発表を行う。	評価指標の達成度 １－①新型コロナウィルス感染症の感染拡大による休校のため，実施したのは９月からとなり，実施回数は６回であった。しかし，コロナ渦の中で自分たちにできることは何か考え発信することができた。 １－② コロナウイルス感染症の感染拡大のため様々の行事が中止となったが，学校祭や学習発表会で２回以上人権ポスターの掲示や受賞曲を手話で発表することができた。 活動計画の実施状況 １－①児童生徒や教職員に呼びかけ「平和の折り鶴」を５２１羽作成することができた。サンフラワー９月号を通して平和の折り鶴について発信することができた。 １－② 作詩・作曲作品やポスター作品が，徳島県の教育長賞や理事長賞を受賞したり，阿南市で入賞したりした。また，ポスターや標語の作品展，学校祭において２回以上発表する機会を持つことができた。	総合評価 （評定） B （所見） 人権放送は，担当教員が学校行事や時期に沿ったテーマを生徒たちに提案しながら決めている。生徒たちは放送本番前まで練習を重ね自信を持ち放送につなげることができた。 徳島県や阿南市の人権作品応募事業において入賞した作詞・作曲部門やポスター作品等の発表の機会をとおして，校内外に人権の大切さについてメッセージを届けることができた。		さわやかクラブによる人権放送や作詞・作曲部門の作品発表は人権の大切さを発信していくために定借した取り組みとして充実していた。しかし，来年度は，生徒の実態の変化により参加生徒の激減が予想されている。今までの取り組みをどのように存続していくか考えていく必要があると思われる。また，ポスター等人権作品を活用した啓発活動については，子どもたちの感性の豊かさに触れてもらうことができるように，他の教職員と連携を図りながら取り組みを充実させいくことが大切である。
〔本年度の重点課題〕 地域とともにある学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　地域交流及び地域貢献活動の機会をとおして，人権尊重・人権擁護の意識啓発に努める。	評価指標 １　地域で催される人権教育を推進するための様々な活動や行事に，年間２回以上，児童生徒や教職員，保護者が参加する機会をもつ。 活動計画 １　阿南市人権教育協議会が主催する「身元調査お断り」ワッペン運動の該当啓発活動や阿南市人権フェスティバル等，人権教育を推進するために地域で行われる様々な活動や行事に，児童生徒や教職員，保護者が参加する機会をもつ。	評価指標の達成度 １　新型コロナウイルス感染症拡大のため，計画されていた活動や行事が中止となり児童生徒や教職員，保護者が参加する機会を持つことができなかった。 活動計画の実施状況 １　「身元調査お断り」ワッペン活動や人権フェスティバル等，地域で行われる活動や行事が中止となり児童生徒や教職員，保護者が参加する機会を持つことができなかった。	総合評価 （評定） C （所見） 地域で催される人権教育を推進するための活動や行事が，新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となり児童生徒や教職員，保護者に参加する機会を持ってもらうことができなかったことは残念であった。		地域で催される人権教育に関する行事等への参加は，新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら検討していく必要があると考える。

＊ 「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　生徒生活指導課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　安心･安全に学校生活を送るために児童生徒自らが考え行動できる力を育む。 ２　研修方法や訓練方法を検討し，各種対応マニュアルや実状調査について，教員への周知が確実にできるようにする。	評価指標 １-①自力通学生への通学指導（登下校時の立哨指導・集会）を年 10 回以上実施する。	評価指標の達成度 １－①緊急事態宣言による学校休校で学校安全の日に実施する集会は１月までで７回。立哨指導は長期休業明け等にも実施したので１月までで 15 回実施した。	総合評価 （評定） B （所見） 計画通り実施することができた。 学校安全の日に自転車利用生と公共交通機関利用生に行っている集会は生徒に定着し，問題行動や交通事故の未然防止に役立っていると実感している。 スマホ教室は新型コロナウイルス感染予防のため視聴覚室から体育館に場所を変更し距離を開けて実施できた。 児童生徒捜索訓練と不審者侵入対応訓練の今回の訓練結果を元に次年度にどのように実施していけばよいか見直し点が確認できた。	自力通学生は何名いるのか。 自転車通学生の安全指導は，通学路のどの箇所で行っているのか。	学校安全の日の集会は今後も引き続き実施し,生徒自身が自分の行動を振り返り，マナーやルールを守って行動できるよう内容を工夫して実施していきたい。 スマホ教室は来年度も新型コロナウイルスの影響等どのような状況となっても対象生徒には実施できるように計画していきたい。 児童捜索訓練では捜索班の動きを事前に周知し実施できるようにしていきたい。 不審者侵入対応訓練では，放課後活動中の生徒も交えて教員全体の動きを確認することができたが，初期対応部分や他の教員の動きなどを動画撮影し最後の講評の時に全教員に振り返り確認できるよう計画していきたい。
	１-②自転車通学生の自転車点検の実施率の向上と点検結果を利用した安全指導を実施する。	１-②対象生徒全員が点検を実施した。点検結果を元に学校安全の日の集会で安全指導を行った。			
	１-③生徒の現状を把握し，スマホ教室を実施する。	１-③事前に担当者と打ち合わせを行い，７月 16 日（木）に実施できた。			
	２-①児童生徒捜索訓練の早期実施と見直したマニュアルの教員への周知を徹底する。	２-①マニュアルを教員に周知し，緊急事態宣言に伴う休校中に実施できた。			
	２-②不審者侵入時の各班の動きを担当教員に周知する。	２-②マニュアル説明時に各班の担当者の動きを周知し，授業中という設定で訓練を実施できた。			
	２-③「いじめ実状調査」の結果を元に各学部で生徒の現状を教員に周知する。	２-③７月と 12 月の２回実施し，現状周知できた。			
	活動計画 １-①学校安全の日に実施する。	活動計画の実施状況 １-①計画通り実施できた。			
	１-②点検表を担任に配付し，実施結果を担当が集計し，担任と連携して不備箇所の改善や安全指導を実施する。	１-②３年生で長期実習のため不在の時以外は点検と安全指導を行うことができた。			
	１-③生徒の使用実態や昨年度までのトラブル例を講師に伝えるとともに SNS トラブルの現状や正しい使い方など正しい知識についても習得できる内容で実施を計画する。	１-③高等部のスマホ所持生徒２２名に対し，事前に生徒の使用実態を講師に伝えて実施することができた。			
	２-①４～５月中の実施と訓練後の意見を集約し，マニュアルの改善点をまとめる。	２-①緊急事態宣言に伴う休校中の５月７日に実施し，見直し点も課内で周知できた。			
	２-②訓練内容を不審者の初期対応や対応班行動を主に実施していたが，他の教員の行動確認できる内容で訓練を計画実施する。	２-②木曜日の５限目の設定で教員および放課後活動で残っている児童生徒も配置して実施した。役割の当たっている教員の動きとともに役割のない教員の生徒の安全確保と避難についても研修できた。			
	２-③いじめ実状調査の実施（７月・１２月・２月）と実施方法を事前教員に周知する。	２-③事前に実施方法を教員に伝え，１回目（７月）と２回目（12 月）を予定通り実施できた。３回目は２月に実施予定。			

＊「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　特別活動課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 １　ＩＣＴを活用した児童生徒総会を開催する。	評価指標 １　ＩＣＴを活用した児童生徒総会を３回以上開催する。 活動計画 １－①児童生徒会役員会において，児童生徒総会の内容や実施方法について話し合う場を設定する。 １－②図書情報課と連携し，児童生徒総会の動画を撮影し，番組を作成する。 ※番組は校内ネットワークの画像フォルダに保存し，各担任が ipad 等に移動させ教室等に持ち込む。校内放送ウイークの特別活動や生活単元学習等の時間に児童生徒が視聴する時間を設定する。 １－③番組に関する意見や感想を参考にし，次の番組に向けた総括の場を設定する。	評価指標の達成度 １　児童生徒会が中心となった動画による放送を 10 回配信した。主な内容は，体育の日のキャッチフレーズに関するもの，手洗いリレーに関するもの，役員選挙に関するものであった。 活動計画の実施状況 １－①月曜２校時の特別活動の時間に実施した児童生徒会役員会や昼休みを利用して，話し合いを７回行った。 １－②図書情報課の職員に，iMovie の使い方について教わって編集した。完成した動画は，iPad の AirDrop を使って配信するとともに，校内ネットワークの画像フォルダに保存しておくことで利用しやすいようにした。そのことで，学部や学級，児童生徒に応じた方法で視聴する環境づくりができた。 １－③児童生徒の感想を児童生徒会を通して聞いたり，職員から児童生徒の受け止めの様子を聞いたりして総括した。	総合評価 （評定） A （所見） 動画を撮影し配信したことで，「楽しく見られた」「わかりやすかった」，「よく集中して見られた」などの感想が寄せられた。ＩＣＴを活用した発信の有用性を実感するとともに，更なる可能性を感じた。「手洗いリレー」では，例年活動が少なくなりがちな小学部の児童や中学部の生徒にも焦点を当てることができ，校内の児童生徒の相互理解や人間関係構築の基礎につなげることができた。		すべての児童生徒にとってわかりやすい，見やすい，参加しやすい放送になるよう小学部や中学部の児童生徒，教職員へのインタビューの件数を増やす必要がある。 また，行事や式，役員選挙に関することなど定例の内容に加え，児童生徒の興味，関心に沿った内容を取り上げられることも検討する必要がある。 さらには，教職員がアプリ等ＩＣＴに関する研修に継続して取り組み，指導技術の向上を図る必要がある。
〔本年度の重点課題〕 地域とともにある学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　マスコットキャラクター「ひまちくりん」の４コマ漫画を作成し，ホームページから閲覧できるようにする。	評価指標 １－①児童生徒会役員会において，「ひまちくりん」の４コマ漫画作成に向けた話し合いを３回以上実施する。 １－②「ひまちくりん」の４コマ漫画を 11 月末までに作成し，ホームページ上にアップする。 活動計画 １－①児童生徒会役員会において，「ひまちくりん」の４コマ漫画の作成に向けて話し合いをする。 １－②　必要に応じて，美術教員や図書情報課の教員と連携し，協同する。 １－③　完成したら，生徒総会で校内に周知した後，ホームページ上にアップする。	評価指標の達成度 １－①　児童生徒会役員会において，話し合いを４回実施した。 １－②「ひまちくりん」の４コマ漫画が２月末に完成し，ホームページ上にアップした。 活動計画の実施状況 １－①４回の話し合いの中で，シナリオの考案から選定，４コマ漫画を描きたい生徒の募集などを決定した。 １－②４コマ漫画の描き方や配置，構成や生徒内での分担などを美術教員が担当した。 １－③動画で撮影し，校内に配信するとともに，ホームページ上にアップした。	総合評価 （評定） B （所見） 制作時期が大幅に遅れたが，児童生徒会役員を中心に，４コマ漫画を描きたい生徒にも参加してもらい，完成させることができた。動画という形で配信したことで，児童生徒は興味を持って見ることができた。また，ホームページ上にアップすることで，校外や地域の方々にも見ていただく機会を設けることができた。		今年度は，本校のマスコットキャラクター「ひまちくりん」を登場させた短編アニメーションを作成する方法をとったが，次年度は違う方法で地域の方々に発信したり，つながったりする方法を検討する必要がある。他課やＰＴＡとの連携を深め，進めていきたい。

＊「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　進路指導課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　安心や安全に配慮した就業体験を計画し，実施する。	評価指標 １安心や安全に配慮した就業体験が実施できたという高等部教員の評価が 80 %以上となる。 活動計画 １－①保護者に新型コロナウイルス感染症防止対策についての文章を作成・配付して就業体験への協力を依頼する。 １－②保護者に新型コロナウイルス感染症防止対策をとったうえでの就業体験への参加の有無を選択してもらう。 １－③健康観察表を作成・配布し，就業体験中に健康チェックをして保護者の確認印をもらう。 １－④就業体験前に引率教員に新型コロナウイルス感染症防止対策を周知徹底する。 １－⑤感染状況等を考慮しながら感染症予防対策や就業体験の計画・実施等について課会で検討する。 １－⑥必要に応じて事業所や施設と適宜連絡をとる。	評価指標の達成度 就業体験実施後の高等部教員アンケートにおいて「安心安全に配慮した就業体験ができた」が 94.7 % となった。 活動計画の実施状況 １－①６月～１２月・１月・２月の就業体験実施時，保護者に新型コロナウイルス感染症防止対策についての文章を作成・配付して就業体験への協力を依頼した。 １－②就業体験実施時に保護者に新型コロナウイルス感染症防止対策をとったうえでの就業体験への参加の有無を選択し，実施の場合は参加願いを提出してもらった。 １－③健康観察表を作成・配布し，就業体験中は朝・夕の検温と健康チェックをして保護者は確認印を押し，担当教員は保護者の押印を確認して実習を行った。 １－④就業体験前の部会で引率教員に新型コロナウイルス感染症防止対策を周知徹底した。 １－⑤感染状況等を考慮しながら感染症予防対策や就業体験の計画・実施等について進路課長と進路指導主事で検討した。 １－⑥打ち合わせ時や実習あいさつの時(打ち合わせ)，必要発生時に事業所や施設と適宜連絡をとり，急に実習を延期するなどの対処を行うことができた。	総合評価 （評定） B （所見） 新型コロナウイルス感染症の関係で就業体験の実施時期が大きく変わった。常に新型コロナウイルス感染状況をみながら実習を立案・計画・実施し実習先とも連絡を密にして就業体験を実施した。 就業体験前に新型コロナウイルス感染症防止対策として保護者に文書を配布し参加の有無や健康チェック表への記入と確認の押印をお願いすることで保護者の危機管理や安全対策の意識づけができた。また，担当教員も保護者の印の確認を行うことで安全への意識が高まった。日頃の生徒・職員のマスク着用や・手洗い・消毒の習慣もあって安全に就業体験が実施終了できた。そして，実習先との打ち合わせ等で新型コロナウイルス感染症対策の共通理解を図るとともに就業体験先との密な連携により感染の危険を防ぐことができた。	高等部２０名の進路状況について	来年度も新型コロナウイルスの感染が続く中での就業体験の実施となる可能生が高い。また，新型コロナウイルスの変異も言われており安全なワクチン接種ができるめどもはっきりと立たない状況下でもあり，新型コロナウイルス感染症防止対策を行ったうえでの就業体験の実施が不可欠であると考えられる。 今年度と同様に新型コロナウィルス感染症の動向をみながら関係機関と密に連絡を取り，そのときのベストな安全対策を考えて就業体験の計画の立案・実施を行って行かなければならないと考える。

＊「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　　Ｂ：概ね達成できた　　Ｃ：達成できなかった

［令和２年度学校評価総括表　特別支援教育課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 地域とともにある学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　地域の特別支援教育に貢献できるよう，センター的機能の充実を図る。	評価指標 １－①専門性向上に関する研修会を 1 回以上開催する。アンケートを実施し，「専門性の向上が図れた，または今後の実践に生かすことができる」との回答が 80 %以上である。	評価指標の達成度 １－①研修会が実施できず達成できなかった。	総合評価 （評定） C （所見） 今年度の研修会については，中止が妥当であったと考える。 個別の支援計画について，保育所のみの所属や通常学級のみの所属の子どもは作成をしていない。巡回相談の対象となる子どもは支援が必要だが個別の支援計画を作成していないというケースが圧倒的に多いということがわかった。 このことを踏まえ，切れ目のない支援体制を整えるためにできることを考える必要がある。	特別支援教育巡回相談について この事業はいつから実施しているのか。 相談の実施までの流れ，相談場所等について	今後の状況を確認しながら ICT 機器を活用するなど研修会の持ち方や参加方法について検討し，センター的機能の充実を図ることができるようにする。 各関係機関との連携をよりスムーズに行うため，教育機関からのニーズだけではなく，市役所の子ども課や保健センター等の福祉関係機関からのニーズについても傾向や質問をまとめる。 保育所や通常学級のみの所属であっても，保護者・本人の希望や今後の指導の方針，関係機関とのつながり等，その子との関わりを考えていく中で最低限必要な項目が記された書式が必要ではないか。どのような内容にすれば，関わる人が負担なく作成できるものになるのかを考えていく。 相談内容について，よりポイントを絞ったものにするため，教育現場で現在の支援計画がどのように活用されているかや指導計画作成についての質問事項をまとめていく。
	１－②巡回相談員による巡回相談において，地域の関係機関のニーズに応じた相談活動を行う。	１－②各教育機関での相談において，毎回先生方の困り感について質問を行い，話をすることができた。実際の現場で，子どもへの関わり方についてのニーズや支援計画，指導計画の書き方等のニーズに対して話を進めることができた。			
	活動計画 １－①-1 特別支援教育パワーアップ事業を活用し，昨年度のアンケート結果や実情を鑑み，外部講師を招聘して研修会を開く。	活動計画の実施状況 １－①-1 新型コロナウイルス感染症により，開催場所，開催時期，開催方法について検討したが開催困難と判断し，計画途中で開催を断念することとなった。			
	１－①-2 専門性向上に関するアンケートを外部参加者全員を対象に実施する。	１－①-2 実施できなかった。			
	１－②-1 巡回相談の際，対象児の個別の支援計画作成の有無を確認し，普及率を調べる。	１－②-1 本校の 12 月末までの相談対象児における支援計画普及率は 9.6%（21/218 人）と非常に低い数値であることがわかった。			
	１－②-2 支援計画の活用の仕方や指導計画の書き方について確認し，ニーズがあれば相談に応じる。	１－②-2 幼稚園での事例であるが，実際に相談対象に挙がった園児の指導計画について，目標設定の適切さや手だての方法について質問があった。具体的な評価方法，評価基準，手だての追加や視点について話をするなど相談に応じた。			

＊「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった

［令和２年度総括評価表　保健環境課］　　（学校名：徳島県立阿南支援学校）

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
〔本年度の重点課題〕 安心・安全な学校づくりの推進 〔下位組織レベル〕 １　児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるように感染予防対策の徹底を図る。	評価指標 １　感染症予防対策（健康観察や手洗い・手指消毒，マスク着用，定期的な消毒，給食における予防対策）が徹底されたという教員の評価が 80 ％以上となる。 活動計画 １－①給食当番チェック表，健康観察表などを作成し，毎日確認して症状が見られる児童生徒には迅速に対応したり，給食における密を避けるための環境設定などを行ったりする。 １－②手洗い・手指消毒，換気，定期的な消毒，マスク着用等できているかどうか月に１回チェック表で教室毎にチェックして確認し，学校全体で感染症予防対策に取り組むことができるようにする。 １－③月に１回課会で校内ガイドラインや感染予防対策の不備や改善点を話し合い，健康管理や環境衛生を良好に保つ取り組みを進め，月に１回職員会議等で提案する。	評価指標の達成度 １　感染症予防対策を徹底できたという教員の評価が６月は 88.5 ％，７～９月は 92.3 ％，11 月～ 12 月は 100 ％であった。 活動計画の実施状況 １－①給食当番チェック表，健康観察表や対応についてのマニュアルを作成した。毎日確認し，症状が見られる児童生徒にはマニュアルに従って対応した。給食における密を避けるために環境設定を行った。 １－②月に１回チェック表で教室毎にチェックして確認し，できていなかった項目については，職員朝礼で対策を講じるように周知し，学校全体で予防対策に取り組んだ。 １－③月に１回の課会では，ガイドラインや予防対策について話し合い，文部科学省の改訂の際には，改訂のポイントや予防対策についての変更点については職員会議で提案した。	総合評価 （評定） B （所見） 感染症予防対策について，マニュアル等を学校全体に周知すると共に，毎月の予防対策チェック表で確認し，学校全体で感染症予防対策の徹底を図ることができた。		次年度も引き続き感染症予防対策について継続して取り組んでいきたい。より効率よく，より効果的な予防対策の改善案を考え提案し，学校全体で感染症予防対策に取り組んでいけるようにする。
〔本年度の重点課題〕 多様性を育むキャリア教育の推進 〔下位組織レベル〕 １　キャリア教育で必要な基本的生活習慣の育成を図る。	評価指標 １－①ヘルシークラブの運動を毎週月曜日に開催し，出席率が 80 ％以上になる。 １－②ヘルシークラブで，生徒が正しい食生活を知ることができたと８０％以上回答する。 活動計画 １－①中学部・高等部の自力通学生徒から希望を募る。週に１回の運動や生活習慣に関する指導を継続的に行い，トークンエコノミーシステムを取り入れ意欲的に活動できるようにする。月１回課会で検討し，内容の充実を図る。 １－②曜日ごとの担当者を決め，毎日決められた時間に集合し，１５分程度給食の献立と栄養素の３食分け掲示を行う活動を設定する。栄養についてのクイズ等も取り入れ，楽しく学習できるようにする。	評価指標の達成度 １－①ヘルシークラブの運動を毎週月曜日に開催し，出席率は 100 ％であった。 １－②ヘルシークラブで，正しい食生活を知ることができたと 85 ％の生徒が回答した。 活動計画の実施状況 １－①毎週月曜日の放課後，運動や生活習慣に関する指導を継続して行った。トークンエコノミーシステムを取り入れると共に，運動内容を毎回変えたり，リレー等の新しい活動を取り入れたりして，意欲的に取り組めた。 １－②曜日ごとの担当者が給食の献立と栄養素の３食分けの掲示を行った。食生活や栄養バランスなどの指導も行った。	総合評価 （評定） B （所見） ヘルシークラブの活動については，新しい活動を取り入れ，チーム戦で行うなどしたことで，活動内容が充実でき，楽しみながら意欲的に運動することができた。一方，食生活についての指導については，時間がとれず不十分であった。	卒業後も栄養素の３食分けを覚えており，栄養バランスのとれた食生活を送ることに役立っている。 ヘルシークラブは放課後活動をしている生徒の希望者が活動しているが，ヘルシークラブの活動内容を全校児童生徒に広げてほしい。 肥満傾向のある児童生徒についても，ヘルシークラブの活動内容は有効である。 トークンエコノミーシステムについて	ヘルシークラブは生涯を通じた健康づくりや体力作りのために，より充実した活動内容を考え，継続して取り組んでいきたい。よりよい生活習慣や正しい食生活については，時間をとって，計画的に指導していきたい。

＊「評定」の基準　Ａ：十分達成できた　Ｂ：概ね達成できた　Ｃ：達成できなかった